

鹿角市まち・ひと・しごと創生総合戦略

～ 平成 30 年度までの推進状況 ～

(令和元年 10 月)

鹿 角 市

目 次

I. 総括検証	1
(1) 評価	1
(2) 重点的課題	2
II. 施策ごとの検証	
基本目標 1 笑顔あふれる雇用をつくる	
(1) 域外市場産業の活性化	3
(2) 地域資源の循環	6
(3) 産業人材の確保	8
基本目標 2 笑顔あふれる人の流れをつくる	
(1) 首都圏等からの移住の促進	9
(2) 都市ブランドの確立	11
基本目標 3 笑顔あふれる若い世代の希望をかなえる	
(1) 結婚しやすい環境づくり	13
(2) 安心して出産できる環境づくり	14
(3) 子育て支援サービスの充実	14
(4) 子育てに伴う経済的負担の軽減	15
基本目標 4 笑顔あふれる地域をつくる	
(1) まちなか賑わい創出	16
(2) 地域コミュニティの活力再生	18
(3) 健康生き生き長寿社会の実現	20
III. 検証スケジュール	21

I. 総括検証

(1) 評価

「笑顔あふれる元気な『かづの』」を目指して取組を進めている「鹿角市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の4年目が終了した。当資料にて平成30年度までの進捗状況をまとめたが、暮らしやすい地域づくりのための最も重要なアウトカムとして設定した4つの基本目標については、基本目標1の「雇用創出数」が最終年度を前に目標を上回る成果となった一方で、基本目標2の「転入者数」や基本目標4の「住みよこちの満足度」については、3年連続で前年を下回る結果となった。

産業力強化による雇用の創出は、総合戦略推進の大黒柱となる分野であり、本市の産業をけん引する農業、観光業、製造業の各分野で外貨獲得に向けた産業振興策が展開された。それによって、雇用創出数の拡大へと結び付いており、今後も生み出された「しごと」を基軸に、移住施策の推進や若者の希望を叶える支援へと展開を図り、目標値の達成を目指していく。

基本目標3については、数値の公表を待たなければならないが、ファミリー・サポート・センターの充実や子育てにかかる経済的負担の軽減、さらには子育て世代包括支援センターの開設により、安心して出産・育児ができる環境づくりが進んだ。しかしながら、地方の医師不足が背景となり、本市で唯一受入れのあった地域中核病院の分娩取扱機能が他市へ集約されたことに伴い、子育て支援の満足度の低下にも影響していることから、分娩や健診受診のための交通支援の継続と市独自の産婦人科医確保策を強化していく。

KPI（重要業績評価指標）については、全体で67指標のうち65指標が評価対象となったが、4年目を終えた時点で「目標に到達した指標」及び「目標には到達していないが当該年度までの計画以上に目標に近づいた指標」の割合は全体で49.2%にとどまっている。

次ページ以降には、施策ごとの検証結果を記載しているが、抽出された課題を踏まえながら、各事業間の効果的な連携を図り、基本目標の達成に向けて一層取組を進めていく必要がある。

【基本目標の状況】

目標値（R1）	実績値				
	H27	H28	H29	H30	評価
基本目標1【雇用創出数：累計290人増】 笑顔あふれる雇用をつくる	62人増	147人増	217人増	319人増	計画どおり
基本目標2【転入者数：年間700人】 笑顔あふれる人の流れをつくる	626人	595人	533人	522人	一層の取組が必要
基本目標3【合計特殊出生率：1.80】 笑顔あふれる若い世代の希望をかなえる	—	—	—	—	一層の取組が必要
基本目標4【住みよこち（満足度）：60%】 笑顔あふれる地域をつくる	55.2%	52.5%	51.1%	43.1%	一層の取組が必要

【KPI の状況】

基本目標区分		指標数			
				うち着手事業分	
				計画どおり ¹	計画どおりではない
基本目標 1 笑顔あふれる雇用をつくる	件数	28	26	13	13
	割合			50.0% (H29 : 46.2%)	50.0% (H29 : 53.8%)
基本目標 2 笑顔あふれる人の流れをつくる	件数	10	10	5	5
	割合			50.0% (H29 : 50.0%)	50.0% (H29 : 50.0%)
基本目標 3 笑顔あふれる若い世代の希望をかなえる	件数	9	9	4	5
	割合			44.4% (H29 : 66.7%)	55.6% (H29 : 33.3%)
基本目標 4 笑顔あふれる地域をつくる	件数	20	20	10	10
	割合			50.0% (H29 : 50.0%)	50.0% (H29 : 50.0%)
全体	件数	67	65	32	33
	割合			49.2% (H29 : 50.8%)	50.8% (H29 : 47.7%)

(2) 重点的課題

人口ビジョンにおいて、本市では特に社会減の解消が人口減少及び少子高齢化の抑制に効果的であると整理したことを踏まえ、初年度から移住促進に力を入れて本市の魅力ある情報発信や移住希望者に寄り添った相談、移住体験機会の提供を行いながら、転入数の増加に努めている。しかしながら、実績が減少傾向にあり、目標から遠ざかっていることは当戦略における重点的課題である。

同時に、高校卒業者の地元就職を促進するため、地元企業の積極的な求人活動や情報発信、情報交換会や説明会など企業を知ってもらう機会を設けている中で、県内就職率は増加しているものの、鹿角管内就職率が低下していることは、転出数の増加にもつながっており、社会減の解消を図るには、転入希望者や地元の若者のニーズに応えられるより細やかな支援策を講じていく必要がある。

また、各分野において人材確保の課題がより顕著になっている現状を踏まえ、移住促進策と産業振興策の政策間連携を深めながら、労働力確保に重点を置くとともに、移住者を含め、本市で暮らす人々が住み心地のよさを実感できるよう、総合的な指標の向上を目指していくことが必要である。

¹ 「計画どおり」とは、目標に到達したものと目標には到達していないが単年度の計画以上に目標に近づいたものの合計をいう。

II. 施策ごとの検証

基本目標 1

笑顔あふれる雇用をつくる

▶ 基本的方向

本市の魅力を生かした商品やサービスを生み出し、それを域外に移出することで「外貨」を呼び込み、その資金を域内循環させることで地域の所得向上を図るとともに、雇用環境の創出（拡大）を目指す。また、これらの取組の実現を目指すため、産業振興を担う人材の確保に取り組む。

数値目標	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
雇用創出数	—	62 人増	累計 147 人増	累計 217 人増	累計 319 人増	累計 290 人増

【検証：現状と方向性】

外貨獲得に向けた産業振興策として、新規ブランド農産物の育成や経営サポートによる支援等により、販売重視型農業を推進するとともに、日本版 DMO の正式登録による観光産業の取組の強化や、産業コーディネーターを中心に食品製造関連ネットワークを生かした受注の拡大など、農業、観光業、製造業それぞれで本市の魅力を生かした商品やサービスが生まれつつある。

また、誘致企業による雇用が 50 人、企業立地助成金を活用した設備投資に伴う雇用増が 35 人、創業支援事業計画に基づく起業・創業者が昨年を引き続き年度目標を上回る 12 人となるなど、全体で 102 人の雇用が生み出されているが、有効求人倍率が高止まりしている現状から、人材確保に向けた関係機関との共同宣言をもとに連携を強化し、雇用対策を力を入れていく。

▶ 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

（1）域外市場産業の活性化

（ア）競争力の高い産業の育成

① 農業生産物の高付加価値化

○ 農業経営体の強化

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
経営サポートチームへの 相談件数	—	—	13 件	累計 46 件	累計 102 件	累計 24 件

○ 複合経営の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
主力作物作付面積（6品目）	56.3ha	57.3ha	59.1ha	67.8ha	56.2ha	70.0ha

○ ブランド確立・新ブランド育成

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
淡雪こまち 1 等米比率	83.8%	91.0%	88.9%	64.4%	86.2%	90.0%
玄そば品質区分 2 等級以上	0%	99.7%	100%	100%	100%	100%
北限の桃の年間販売額	1.4 億円	1.5 億円	1.1 億円	1.1 億円	0.7 億円	1.9 億円
かつの牛の飼養頭数	345 頭	396 頭	450 頭	517 頭	544 頭	591 頭
新規作物取組経営体数	—	3 経営体	6 経営体	14 経営体	16 経営体	9 経営体
こだわり作物栽培実践者	—	—	6 経営体	12 経営体	11 経営体	80 経営体

【検証】

経営サポートチームへの相談件数が大幅に増加しており、競争力のある農業経営体の育成が進められている。複合経営の推進については、水田転換主力作物づくり支援事業による支援のもと、枝豆を主として採算性の高い作物への転換が図られており、作付拡大についても計画どおり進んでいる。

ブランド農産物の北限の桃については経営体の高齢化等を背景として作付面積の伸びが鈍化している。一方で、かつの牛は飼育頭数を伸ばし、新規ブランド産品である啓翁桜やシンテッポウユリなどは産地拡大が順調に進んでいる。

鹿角マルシェへの少量多品種のこだわり作物販売に向け、機能・カラフル野菜等の話題性のある農産物の試験販売と野菜ソムリエの育成を図っているが、更なる参画者の拡大が必要である。

② 地元企業の高度化支援

○ 設備投資支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
新增設及び事業の高度化件数	—	13 件	累計 24 件	累計 38 件	累計 56 件	累計 42 件
小規模事業者応援件数	—	—	—	—	—	累計 30 件

○ 新商品開発・販路拡大支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
新商品研究開発件数	—	2 件	累計 5 件	累計 10 件	累計 12 件	累計 25 件

【検証】

設備投資支援においては、企業立地促進事業による事業の高度化支援等を積極的に進めたことで、制度を利用して設備投資を行った製造業関連企業の対前年度比製品出荷額が拡大した。しかし、人出不足を背景に大きな受注増に足踏みをしている状況にあり、労働力不足に対応するための産業人材の育成と UIJ ターン就職を促しながら、市外からの確保策を推進していく必要がある。

新商品開発・販路拡大支援においては、地元企業の連携を推進し、産業コーディネーターがハブとなり、域外からの新規受注が生み出されたほか、食品製造関連ネットワークでは、地域産品のセット販売等の企画が進められた。また、ふるさと名物のブランド化では、農商工間連携による新商品が生み出され、各事業所の活性化につながったが、販売につなげることが依然として課題として残っている。

③ 観光産業の振興

○ 誘客活動の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
観光客数	175 万人	177 万人	169 万人	175 万人	178 万人	191 万人
宿泊者数	22 万人	23 万人	23 万人	23 万人	24 万人	24 万人
外国人宿泊者数	4,000 人	5,498 人	7,241 人	14,311 人	15,207 人	7,400 人

○ 効果的な PR

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
有料ファン会員	—	—	48 人	累計 95 人	累計 187 人	累計 2,400 人

○ 魅力の向上

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
主要観光施設の入込客数	175 千人	179 千人	169 千人	167 千人	254 千人	246 千人

○ 鹿角観光の確立

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
観光消費額 ²	8,335 百万円	7,233 百万円	4,827 百万円	4,683 百万円	4,545 百万円	8,613 百万円

² 平成 30 年秋田県観光統計における秋田県全体の観光消費額の推計値から鹿角市分を推計したもの。

【検証】

本市観光のプラットフォームに位置付けている株式会社かづの観光物産公社の組織体制強化が進み、単年度の収支が黒字計上となったほか、地域 DMO に登録されるなど観光産業確立に向けた体制が構築できた。

インバウンド対策では、台湾などアジア圏を中心に宿泊客数が増加しているほか、ヨーロッパや北米からの誘客も見られる。国内においては、楽天サイトを活用した集中プロモーションにより、有料観光ファンの獲得や国内観光客の宿泊者数の増加につながったほか、本市で2つ目の道の駅となる道の駅「おおゆ」のオープンが主要観光施設の入込客数を大きく押し上げる結果となった。また、「花輪ばやし」においては、ユネスコ無形文化遺産登録をきっかけとした秋田市、仙北市との3市連携事業によるPRが展開され、観光誘客につながるメディア露出の機会が創出された。

一方で、十和田八幡平国立公園を中心とした誘客に向け、八幡平の自然体験コンテンツの掘り起しや2つの道の駅を生かした観光ルートの吸引力を高める取組、さらには広域観光連携のメリットを最大限に生かしながら地域 DMO の強みや観光企画力を生かした着地型旅行商品の開発・展開が今後の大きな課題となっている。

（イ）新産業の創出

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
誘致企業数	—	0 社	0 社	3 社	累計 3 社	累計 1 社
起業・創業者数	—	7 件	累計 15 件	累計 27 件	累計 39 件	累計 35 件

【検証】

新産業の創出においては、平成 29 年度に誘致した企業のうちの 1 社が鹿角市産業団地で操業を開始し、45 人の雇用が創出されている。また、起業・創業支援においては、若者や女性に対する補助制度、金融機関などの支援も相まって平成 30 年度は 12 件の操業に結び付いた。

今後も引き続き、企業誘致活動に力を入れるとともに、商工会や金融機関等と連携した起業・創業支援を行いながら、新産業の創出に努めていく。

（２）地域資源の循環

（ア）地域内連携の活性化

○ 異業種連携の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
アグリビジネス支援件数	—	—	2 件	累計 3 件	累計 6 件	累計 8 件

○ 地産地消の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
かづの産食ショップ 認証事業所数	—	17 事業所	累計 27 事業所	累計 30 事業所	累計 30 事業所	累計 90 事業所
新電力設立数	—	—	0 社	0 社	0 社	累計 1 社

【検証】

農産加工及び販路拡大など、農業を産業として躍進させるための6次産業化につながるアグリビジネス支援については、ブルーベリー、リンゴの加工品など3件の利用があった。商工会、金融機関との協定に基づく農業経営サポートチームの活動、株式会社かづの観光物産公社を中心とする日本版地域DMOの機能、まちなかオフィスに配置するコーディネーターの活動を通じ、引き続き地域内連携を進め、6次産業化と販路開拓を強化していく必要がある。かづの産食ショップの認定については、頭打ちとなっている。

エネルギーの地産地消については、環境省及び林野庁の委託事業に民間とともに応募し、自家消費、水素、市民出資、木質バイオマスなど多様な課題に取り組み、地域の関係者の関心が高まったほか、電力の地産地消では、視察、事例検討から市場価格でも成立可能性のあるモデルを構築し、令和元年度の設立に見通しが立った。

(イ) 地域商業の活性化

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
ハミングカード・コナン カードポイント付与数	14,688 千 ポイント	15,434 千 ポイント	18,133 千 ポイント	15,770 千 ポイント	15,930 千 ポイント	14,948 千 ポイント

【検証】

商店街連携会議による議論がきっかけとなり、地元高校生の視点を取り入れた「助っ人高校生制度」の実施や、コモッセイベントと連携したポイント事業などの実施につながり、ポイントカードの付与数は前年度より改善し、目標値を上回って推移している。また、ハミングカード協同組合が中小企業庁のPDCAサイクル活用促進事業を実施するなど、商店街の主体的な事業展開が進められている。

しかし、商店街の歩行者数は減少傾向にあり、イベントの実施が商店街店舗の集客ひいては商店街への来訪につながっていないことから、商店街連携会議において、継続して課題を議論し、対策を打ち出していく必要がある。

(3) 産業人材の確保

(ア) 人材の育成

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
新規農業参入企業	—	—	—	2 社	累計 4 社	累計 4 社
産業人材育成支援事業活用者数	—	47 人	累計 107 人	累計 167 人	累計 228 人	累計 250 人

【検証】

企業の農業参入については、異業種から新たに 2 社の参入があり、目標値に到達した。また、後継者がいないことにより廃業する事業所がみられることから、事業継承に向けた取組を促進するため、かつの商工会と連携し情報共有を図った。

産業を担う人材の能力開発においては、企業による人材育成を継続して実施した結果、平成 30 年度は 61 人の活用者が出ており、目標値の達成に目途がついた。また、「ネクスト農塾」においては、若手農業者の連携と将来のリーダーの育成が進むとともに、鹿角の産業界を先導できる人材の育成を目指し開催している「産業活力塾」では、若手 15 人が受講し専門的指導を受けている。

(イ) 就業支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
新規就農者数	—	1 人	累計 1 人	累計 6 人	累計 11 人	累計 10 人
A ターン就業者数	—	—	—	—	—	累計 90 人
資格取得支援事業活用者数	—	81 人	累計 98 人	累計 104 人	累計 112 人	累計 150 人

【検証】

新規就農者については、研修制度の利用促進のほか就農直後の経営支援にも取り組み、新たに 5 人が就農した。一方で、農業者の高齢化等による離農が進んでいることから、新規就農者の確保に向けては、移住就農者や 50 代の中年層の人材も確保できるよう就農相談セミナー等を効果的に活用していく必要がある。

40 歳未満の若年者の職業能力を向上させるための資格取得支援については、新たに 8 人が活用したが、当制度の利用者が伸び悩んでいることから、助成対象となる資格の拡大や利用促進対策を講じながら、労働者の能力向上につなげていくことが必要である。

また、人材不足が顕著な業種においては、企業 PR 動画や企業カタログを有効活用し、大学生等をはじめとした A ターン就職の増加が図られるよう取り組む。

基本目標 2

笑顔あふれる人の流れをつくる

▶ 基本的方向

移住しやすい環境を整備し、移住に結び付く情報発信やイベントを通じて UIJ ターンを促進するとともに、移住予備群となりうる交流人口の拡大を目指す。

他自治体との差別化を図りつつ自立的な活性化を進める観点から、鹿角ならではの独自の価値や誇りを具現化する「鹿角ブランド」を確立し、観光客など交流人口の拡大を図りながら地域経済を活性化し、ひいては人口の流入増、流出減をもたらすことで持続的発展につなげていくことを目指す。

数値目標	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
転入者数（年間）	648 人 (直近5年平均)	626 人	595 人	533 人	522 人	700 人

【検証：現状と方向性】

先行して移住策に取り組んだことにより推進体制が確立しており、平成 30 年度までの 4 年間で 99 世帯 169 人が移住するなど着実な成果が見られるが、転入者数については目標値を下回っており減少傾向が続いている。

移住情報の発信にあたっては、これまで以上に魅力の発信を工夫していくことが必要であるが、移住コンシェルジュと NPO 法人かづの classy がこれまで築いた移住先候補としての魅力を継承しながら、労働力確保や技術向上に資する人材に重点を置いて発信を進めていく。また、平成 30 年度から新たに関係人口（鹿角家）の構築に取り組んでおり、今後は関わりしらの発掘、マッチングなどにより地域活性化を図るほか、二拠点居住やその先にある移住を視野に入れた関係人口の構築を行っていく。

▶ 重要業績評価指標（KPI）

（１）首都圏等からの移住の促進

（ア）移住の促進

○ 移住促進体制の整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
移住・定住サポーター登録者数	—	32 人	71 人	54 人	65 人	100 人

○ 移住情報の発信

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
移住窓口への相談件数	—	89 件	累計 311 件	累計 546 件	累計 816 件	累計 370 件

○ 移住体験機会の提供

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
お試し移住ツアーの開催回数	—	7 回	累計 15 回	累計 29 回	累計 38 回	累計 25 回

○ 定住の支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
データバンク成約件数	—	6 件	累計 16 件	累計 31 件	累計 49 件	累計 10 件

【検証】

移住促進体制の整備については、移住コンシェルジュを継続配置し、情報発信や現地案内（ツアー）、移住相談などに応じているほか、移住・定住サポーター登録者数も前年度より増加となった。

移住情報の発信については、移住フェアでの PR や移住専用ホームページ、SNS（facebook 広告、LINE@）活用により、相談件数は目標値を大きく上回る結果となった。特に LINE の友達登録数が増加しており、一人ひとりの満足度や関心が高い新たな関係性の構築がみられる。

移住体験機会の提供については、ツアー参加者が減少傾向にあるが、首都圏出版社とのタイアップにより全国向け住宅雑誌にツアー企画を掲載するなど、新たな取組を展開した。

定住の支援については、宅地・建物データバンクの成約件数が増加しているほか、引越し支援や住宅改修など各種補助金の利用者も増加しているが、受入態勢をより充実させていくために、NPO 法人かつの classy がより主体的に取り組めるよう連携・伴走しながら組織体制の強化を図っていくことが必要である。

（イ）地域間交流の推進

○ 都市農村交流の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
宿泊を伴った 農作業等体験者数	—	24 人	累計 55 人	累計 84 人	累計 115 人	累計 125 人

○ スポーツ交流の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
スポーツ合宿奨励補助金 利用人数（年間）	3,231 人	3,326 人	2,464 人	2,165 人	2,787 人	3,540 人

○ 大学等との連携

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
県外大学等調査研究活動 奨励補助金利用人数	—	—	24 人	累計 66 人	累計 356 人	累計 400 人

【検証】

東京都葛飾区との包括的連携協定の締結を契機に、スポーツ交流や特産品展示、ふるさと葛飾盆まつりへの毛馬内盆踊りの出演決定をはじめとする郷土芸能を披露する機会の拡大が図られている。都市農村交流の推進にあたっては、宿泊と農業体験を提供できる受入世帯の確保が課題であることから、新たに農業法人等と連携強化を図り、民泊と農業体験を切り離した受入体制に見直しながら、引き続き交流の拡大を図っていく。

スポーツ交流の推進では、キャプテン翼杯や FC バルセロナ葛飾校サマースクールの開催など、葛飾区との交流事業が定着しているほか、スポーツ合宿の受入れについても補助制度を拡充したことにより、3 年ぶりに利用者の増加に結び付いた。

大学等との連携については、武蔵野大学の長期学外学修プログラムの受入れが実現し、大学生と地域団体や地域住民の新たな交流が生まれたほか、大学生の視点による地域活性化に関するアイデア等の提案を受ける機会が創出された。

（２）都市ブランドの確立

（ア）ブランドコンセプトの確立

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
鹿角に愛着を持つ人の割合	—	77.3%	73.6%	69.3%	63.1%	68.0%

【検証】

都市ブランドの推進を図るため、鹿角ブランド推進協議会において、「鹿角ブランド推進指針」に基づくアクションプランを策定し、地域を売り出す戦略を取りまとめた。アクションプランは、選ばれる観光地としての認知度を高め、観光消費額の増加を図ることを目的に定めており、ブランドコンセプトの方向性を生かした民間団体等の取組を支援していく。

(イ) 地域資源の信頼向上

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
鹿角市の全国的な魅力度順位	564 位	510 位	525 位	414 位	510 位	320 位

【検証】

本市観光のプラットフォームに位置づけている株式会社かづの観光物産公社の組織体制強化により、観光産業確立に向けた体制が構築されたが、これらの強みを生かした着地型観光商品の開発及び展開が課題となっている。

ブランド農産品については、各支援制度により淡雪こまちや北限の桃の作付け、かづの牛の飼育頭数は伸びているが、経営体の高齢化等を背景に鈍化傾向にある。一方で、新規ブランドである啓翁桜は販売単価が平均値を超え、シンテッポウユリは新規就農者の取組も広がっていることから、新規ブランドの産地拡大が図られている。本市独自のブランド農産物を生かし、市場や消費者の信頼を獲得しながら本市の魅力を高めていくため、質・量ともに安定した供給の実現に向け振興を継続していく。

また、地域愛を醸成していくため、ブランドコンセプトを着実に市民に浸透させていく必要があり、インナーブランディングとアウトーブランディングの両輪で、市外の人々が訪れたくなる魅力的な地域づくりを進める。

(ウ) 魅力の発信

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
鹿角市の全国的な認知度順位	711 位	661 位	660 位	686 位	684 位	520 位

【検証】

ふるさと鹿角応援寄付金のリピーター率が24%まで上昇し、本市の認知度向上の大きな役割を担っている。また、シティプロモーション認定事業により、メディアへの露出機会が増加しており、その取組の一つである「地域開発映画プロジェクト」では、映画のロケ地となった優位性を発揮し、本市の魅力を全国にPRするプロモーション活動を地域ぐるみで取り組んでいく体制が整った。

このほか、移住コンシェルジュによる田舎暮らしのよさを発信する取組や高校生広報室員による若者の視点からの地域情報の発信は、市内外からの興味喚起を意識したものであり、引き続きSNS等の有効活用を図っていく。

基本目標 3

笑顔あふれる若い世代の希望をかなえる

▶ 基本的方向

結婚を望む独身男女への出会いの場の提供と結婚に向けた支援を行うほか、保育環境の充実により待機児童ゼロを維持するとともに、出産・子育てに要する経済的な負担を軽減するなど、子どもたちが健やかに生まれ育つことのできる環境づくりを進め、若い世代が結婚・出産・子育てしやすいまちを目指す。

数値目標	基準値	実績値（H25-H29）	目標値
合計特殊出生率	1.58（H20-H24）	—（R元年度に公表）	1.8（H31）

【検証：現状と方向性】

子育て支援の強化策については計画どおり進んでおり、子育てに伴う経済的負担の軽減も拡充しながら子どもたちが健やかに生まれ育つ環境づくりに努めており、今後も結婚・子育てに希望を持てるよう若い世代を支えていく。また、分娩機能の集約については、引き続き市独自の医師確保対策を講じながら、妊婦の相談体制や交通支援の強化を図り、市民の不安解消に努めていく。

▶ 重要業績評価指標（KPI）

（１）結婚しやすい環境づくり

重要業績評価指標 （KPI）	基準値	実績値 （H27）	実績値 （H28）	実績値 （H29）	実績値 （H30）	目標値 （R1）
出会いイベント提供数	—	10件	累計16件	累計22件	累計29件	累計40件

【検証】

仙台近郊在住女性と市内男性との交流イベントの開催や補助制度を活用した出会い応援イベントの開催支援により、出会いの機会の拡充が図られた。これらのイベントにおいて3年連続で成婚に結びついた一方で、デリケートな面もあるため、出会いイベントの参加者が集まりにくいという課題を抱えている。

しかし、出会い応援は一定の成果として表れていることから、市民団体や結婚サポーターが主催するイベントに加え、市主催のイベントも積極的に実施するなど、より一層出会いの機会の創出を図りながら、あきた結婚支援センターや結婚サポーター等と連携し、地域全体で結婚を応援する機運を高めていくことが必要である。

(2) 安心して出産できる環境づくり

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
市内の産婦人科医師数	3人	3人	3人	3人	1人	3人

【検証】

岩手医科大学への寄付講座設置や継続した医師確保活動を進めてきたが、産科医療については医師不足を背景に、平成30年10月から市内の分娩取扱機能が大館市立総合病院に集約され、かつの厚生病院の産婦人科医は非常勤となっている。妊婦の不安軽減を図るため、母子の健康や家庭環境の実態把握による健康・育児支援を行うための「子育て世代包括支援センター」の構築、分娩や健診受診に伴う交通費助成制度の早期創設により、市外での出産に伴う病院までの距離的な不安や経済的負担の軽減対策を講じているが、引き続き地域医療推進員を配置して産婦人科医の確保に努める。

(3) 子育て支援サービスの充実

○ 母子の健康づくり支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
むし歯の無い3歳児の割合	69.6%	68.6%	69.1%	79.0%	83.9%	78.3%

○ 子どもの預かり支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
放課後児童クラブの待機児童数	1人	1人	3人	0人	0人	0人

○ 保育体制の充実

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
保育園の待機児童数	0人	0人	0人	0人	0人	0人

○ 小児医療等の確保

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
小児・産婦人科医師数	6人	6人	6人	6人	3人	6人

【検証】

2歳児のフッ化物塗布を継続していることにより、むし歯のない3歳児の割合が前年を上回る実績となり、目標値も達成していることから、事業の取組が成果として表れている。

放課後児童クラブは、大湯・平元・尾去沢で高学年の受入れを開始し、希望者すべての受入れに対応できたほか、令和元年度に向けて八幡平・花輪北の2クラブでも高学年の申し込みを開始した。放課後児童クラブは、大湯・花輪北では定員を上回る希望があることや、十和田の低学年におけるニーズも多い現状から、今後全クラブで高学年の受入態勢を整えるには、施設の確保とそれに見合った支援員の確保が課題である。

（４）子育てに伴う経済的負担の軽減

○ 保育料の軽減

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
保育料軽減率（全体）	29.0%	31.1%	33.1%	32.6%	37.1%	30.0%

○ 第3子以降の子育てにかかる費用の軽減

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
出生数に占める第3子以降の割合	22.7%	24.7%	23.2%	23.3%	16.9%	27.7%

○ 医療費の助成

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
子育て支援の満足度	46.2%	55.8%	53.7%	48.3%	45.0%	55.0%

【検証】

国基準保育料からの軽減率が昨年度を上回る37.1%となったほか、保育料無償化の対象を第3子以降に加え、第2子へと拡大したことで全体の62.9%が無償化となった。

子どもの進級・進学に伴う家庭の経費負担軽減のため、中高生の制服や指定通学カバン等を回収し、必要な方に提供する子育て応援リユース事業を継続実施しているが、回収と提供の機会を増やしたことにより、事業の継続的な実施を望む声が届くようになった一方で、第3子以降の割合の減少が心配される。

福祉医療給付では、平成28年度から市独自に高校生世代まで給付対象を拡大しているが、子育て支援の満足度については、高校生を抱える子育て世代で大幅に減少しており、更なる経済的支援が望まれている。

基本目標 4

笑顔あふれる地域をつくる

▶ 基本的方向

人口減少が進行しつつも持続性ある地域社会の形成を図るため、中心市街地の魅力や快適性・利便性、交通アクセスを向上させることにより賑わいを創出し、本市における拠点性の維持を目指す。

また、地域住民が主体性を持ち、地域課題の解決に向けた活動に取り組めるよう支援体制をさらに強化するとともに、地域活動に積極的に取り組む人材の確保と育成を進め、自治会をはじめとする地域コミュニティの活性化を目指す。

さらには、健康ではつらつとしたシニアライフを楽しむことができ、また、何らかの支援が必要になった場合でも、住み慣れた地域で自立した生活ができる社会の実現を目指す。

数値目標	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
住みごこちの満足度	54.7%	55.2%	52.5%	51.1%	43.1%	60.0%

【検証：現状と方向性】

住みごこちの満足度が減少を続けており、医療や福祉関係への不満、買い物の不便さなどが要因として挙げられている。住みごこちは、福祉や雇用、コミュニティなどを含む総合的な指標であり、定住意識の根幹となるものであるため、本市の持つ魅力を十分発揮したまちづくりと計画的な社会基盤の整備を推進し、満足度の向上に努める必要があることから、中心市街地については鹿角花輪駅前広場の整備を完成させ、交通アクセスの向上による各公共施設等の利用増を図りながら、商店街でのソフト事業と連動し、賑わい創出につなげていく。

また、地域コミュニティについては、集落支援員による支援を継続し、自治会の活性化を図っていくとともに、介護予防活動・健康づくりと認知症対策など、地域で支え合える体制の確立を進める。

▶ 具体的な施策と重要業績評価指標（KPI）

（１）まちなか賑わい創出

（ア）中心市街地の魅力の向上

○ 商業機能等の集積

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
商店街空き店舗数	35 店舗	35 店舗	38 店舗	38 店舗	40 店舗	25 店舗

○ 多彩なイベント

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
がんばる商店街応援事業 イベント参加者数	11,700 人	17,933 人	28,206 人	8,070 人	27,135 人	12,200 人

○ 地域資源の保存・創出

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
民俗資料館入館者数（年間）	200 人 (直近3年平均)	—	—	1,406 人	1,984 人	1,000 人

【検証】

商業機能等の集積を図るため、空き店舗バンクを開設しているが、平成 30 年度は成約がなかった。商店街店舗リノベーション支援事業では 3 件の店舗改装等を支援し、1 件は空き店舗の解消につながったが、抜本的な解消には至っておらず、空き店舗数の増加に歯止めがかかっていない。また、商店街の歩行者数も減少傾向にあり、イベント自体の参加者数は増加しているものの、目的である商店街店舗の集積や来訪者の増加につながっていないなど、対策に対して結果が出ていない状況が続いている。このことから、商店街連携会議において、事業連携の促進や今後目指すべき方向性を明確に定め、商店街自身が個々の店舗の売り上げや魅力の増加を図り、空き店舗の減少と来街者の増加を考え実践していくよう抜本的な議論をしていく必要がある。

歴史民俗資料館では、特別展示における企画展も展開するなど、年間の利用者は目標を上回る 1,984 人となっており、中心市街地の新たな拠点となっている。コモッセも利用者は 334,103 人となっており、開館から 4 年連続で 30 万人を超えていることから、これら両施設との相互連携を一層強化し、商店街への回遊性を高めていく必要がある。

（イ）中心市街地における快適性や利便性の向上

○ 社会基盤の整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
中心市街地の環境に 満足している市民の割合	53.5% (4年平均)	59.0%	53.8%	49.1%	52.9%	58.5%

○ まちなか居住の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
中心市街地歩行者数	4,307 人	3,351 人	3,543 人	2,925 人	2,632 人	4,700 人

【検証】

社会基盤の整備については、鹿角花輪駅前広場整備事業が予定どおりに進んでおり、今後予定している広場整備工事についても財源の目途が立ったことから、来年度の祭典開催までに工事を完了する見込みとなっている。鹿角花輪駅が交通結節点としての機能が十分に果たせるよう JR 及びバス事業者や警察署などと密接な連携を図り、まちの玄関口としての魅力向上に資するよう関係団体と連携して整備を進めていくことが必要である。

まちなか居住の推進については、まちなかの空き家を活用した住み替え支援の有効策を検討しながら、居住人口の確保を目指していく。

（ウ）中心市街地のアクセス向上

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
たんぽこまち号の利用人数（年間）	14,950 人	15,210 人	14,594 人	13,729 人	13,953 人	15,714 人
数年間公共交通を利用したことが無い人の割合	58.8%	55.8%	55.0%	66.3%	60.8%	51.3%

【検証】

市街地循環バス「たんぽこまち号」の利用者は昨年度よりわずかに増加したものの、目標値には届いていない。しかし、乗車密度は 8 人台が維持されており、利用者にとっては欠かせない交通手段となっていることから、引き続き利用啓発を図っていく。また、中心市街地へのアクセス向上のためには、中心市街地のインフラ整備を進めるとともに、循環バスの路線のエリア外からのアクセス向上を図るため、地域乗合交通への支援や路線の見直しを引き続き進めていく必要がある

（２）地域コミュニティの活力再生

（ア）地域人材の確保

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
人材育成塾延べ塾生数	—	—	—	16 人	36 人	45 人

○ 外部人材の活用

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
外部人材※活用自治会数	—	—	—	5 自治会	累計 9 自治会	累計 12 自治会

※ 地域おこし協力隊、集落支援員、復興支援員、外部専門家及び地域おこし企業人等

【検証】

鹿角 GENKI カレッジの塾コースを開講し、学んだことを地域に還元する活動を行う若者の育成を進めたが、塾生の増加を図るには事業の周知を徹底し、学びの拡大や実践に結び付ける必要がある。

自治会リーダー研修会の開催や計画づくりを行おうとする自治会での話し合い支援などにより、地域内での人材の確保・育成を進めた。外部人材の活用については、集落支援員の配置により、自治会での話し合いを経て、地域資源などを生かして自治会が主体的に取り組む活性化活動に関する計画の策定や次年度の活動実施に結び付けることができた。

(イ) コミュニティ支援体制の強化**○ 地域づくり協議会の強化**

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
地域づくり協議会事業 の参加者数	37,664 人	48,787 人	40,929 人	39,804 人	37,804 人	39,600 人

○ 集落支援員の配置

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
集落支援員支援自治会数	—	—	—	5 自治会	累計 9 自治会	累計 12 自治会

○ 活動費等への支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
社会活動や地域活動に 参加した市民の割合	70.5%	67.5%	61.9%	56.6%	54.8%	74.0%

○ 活動拠点の整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
自治会コミュニティ 活性化支援件数	—	11 件	累計 24 件	累計 40 件	累計 50 件	累計 25 件

【検証】

集落支援員の配置により、自治会が主体的に自らの活性化に係る活動計画を策定し、次年度の活動につなげていく自治会数が増加した。一方で、地域づくり協議会事業への参加や社会活動等に参加した市民の割合が低下しており、支援の在り方を再検討した上で底上げが必要である。

(3) 健康生き生き長寿社会の実現

(ア) 豊かなシニアライフの促進

○ 健康づくりの推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
要介護・要支援認定率	18.0%	17.8%	17.3%	17.8%	17.9%	17.9%

○ 介護予防の推進

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
地域生き生きサロン参加者数 (年間)	1,792 人	4,393 人	7,597 人	11,338 人	12,039 人	5,792 人

【検証】

健康づくりの推進については、シルバーリハビリ体操が普及し、要介護・要支援認定率が目標値以下にとどまっている。また、介護予防の推進については、介護予防拠点となる地域生き生きサロンの新規開設が1か所増えたほか、全体の利用者数が増加し日常生活支援の基盤となっている。

(イ) 高齢者の安心を支える福祉サービスの充実

○ 高齢者の見守り支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
見守りネットワーク 協定事業所数	累計 59 事業所	累計 60 事業所	累計 60 事業所	累計 60 事業所	累計 63 事業所	累計 68 事業所

○ 日常生活の援助

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
軽度生活援助サービス 提供時間	4,543 時間	3,348 時間	4,183 時間	5,230 時間	3,621 時間	4,924 時間

○ 家族介護への支援

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
相談会、交流会延べ参加数	—	47 人	56 人	40 人	44 人	80 人

○ 認知症への総合対策

重要業績評価指標 (KPI)	基準値 (H26)	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
認知症サポーター1人に対する高齢者数	5.3人	4.8人	4.5人	4.3人	2.6人	3.4人

○ 介護関係施設整備

重要業績評価指標 (KPI)	基準値	実績値 (H27)	実績値 (H28)	実績値 (H29)	実績値 (H30)	目標値 (R1)
整備施設数	—	—	2施設	累計2施設	累計2施設	累計2施設

【検証】

介護サービスを提供する施設で行っている介護支援ボランティア事業では、高齢者の社会参加や自身の介護予防にもつながっているほか、受入施設側職員の業務負担軽減も図られ、ボランティアと施設サービスの両面に効果があった。

高齢者の見守りについては、民間事業者 63 事業所との協定による見守り体制を構築しているほか、NPO 法人による食事の配食サービスによる日常的な安否確認が行われている。

認知症対策については、初期集中支援チームを配置し、認知症ケアパスの活用や認知症カフェの設置、お守りシールの配布など当事者の声を取り入れた取組を推進しながら、総合的な支援体制を構築している。また、認知症高齢者の増加に対応するため、認知症サポーター養成講座の回数を増やした結果、新たに 375 人の養成が図られた。

III 検証スケジュール

- ・ 令和元年 7 月 第 6 次総合計画後期基本計画、まち・ひと・しごと創生総合戦略の事業実績に関する庁内ヒアリング
- ・ 令和元年 8 月 26 日 行政評価推進本部による評価
- ・ 令和元年 9 月 13 日 行政評価市民会議による評価
- ・ 令和元年 9 月 24 日まで 政策アドバイザーによる評価
- ・ 令和元年 9 月 30 日 行政評価推進本部による評価の確定
- ・ 令和元年 10 月 7 日～9 日 市議会決算特別委員会開催（資料配付）